

「安心」のかたち

みんなで決めた

ポスト3.11の「地産地消」を
さがした **柏** の一年

五十嵐泰正 + 「安全・安心の柏産柏消」円卓会議

みんなで決めた「安心」のかたち

ポスト3.11の「地産地消」を
さがした **柏** の一年

五十嵐泰正 +
「安全・安心の柏産柏消」円卓会議



9784750512303



1920030018006

ISBN 978-4-7505-1230-3

C0030 ¥1800E

定価：本体 1,800 円（税別）

亜紀書房

かしたものだ」と評価することができる。「★B」。

「★B」なお、「MY農家」方式の測定で、12年4月以降の新基準値である100 bq/kgを超える農産物が見つかった場合には、柏市農政課に報告して、以後は行政的な措置に委ねることを内規として決定しているが、現在までのところ、自主基準値20 bq/kg越えはあっても、100 bq/kgを超える測定結果は経験していない。

■「社会」で決めるとどうなるか

測定メソッドとともに、円卓会議が避けて通ることができなかったのは、自主基準値の設定である。3月中旬に行われた円卓会議の「MY農家を作ろう」サイトのプレスリリースは、100 bq/kgへの食品規制値の変更のちょうど直前だったというタイミングの一致もあり、4月に数多く受けたマスメディアの取材の関心は、やはり20 bq/kgという自主基準値に集中した。きめ細かい農地からの測定メソッドや、地域の多様な主体の協働という円卓会議のプロジェクトの本質への理解なしに、「20ベクレル」という数字だけが独り歩きすることを警戒する私たちは、いくつかの取材の申し出を断らざるを得なかったほどだ。

が、円卓会議の自主基準値への見解は、行政との対決などといったインパクトの強いストーリーを作ろうとしがちで、多くのメディアの取材者たちにとっては肩すかしだったようだ。円卓会議はこの20 bq/kgという数字を決して適当に打ち出したわけではないが、何らかの医学的な判断根拠を伴った「これなら安心」という意味も、ましてや政府の規制値を不安視することからの対抗意識も、ことさらに込めているわけではないからだ。第1章でみたように、この20 bq/kgという自主基準値は数か月にわたる熟議を経て、立場の違う多様な主体が異なる利害をすり合わせて決定したものであり、そうしたプロセスの結果出てきた数字であるということのみに、何物にも代えがたい価値があるのだと私たち円卓会議のメンバーは考えている。

広く知られているように、現時点での科学から見た低線量被曝の影響についての正解は、「よくわからない」。人類は、広範囲にわたる放射線被害についての経験を、幸いなことに、まだ十分に蓄積していないからだ。そのため、科学者の標準的な見解は、人体に対しての実効線量がどの数値を越えると明確に影響が顕れるという「しきい値」のない、線形モデルを採用している。そこで提唱されるのが、よく知られている国際放射線防護委員会（ICRP）の「ALARA (As Low As Reasonably Achievable: 合理的に達成可能な限り低く) 原則」だ。どこからが危険だと言えない以上、どの基準値をとるか許容できる範囲をどこと定めるかは、防護をすることの医学的メリットと、防護をすることによる社会的・経済的デメリットを天秤にかけて、「社会で決める」しかない。この原則は、まっとうな科学者ならば全員が合意している

——すなわち、放射線防護は結局のところ、科学の領域ではなく社会の領域のマトリだと科学者自身が認め、以前から社会の側にボールを投げかけていたわけだ。

円卓会議では、このALARA原則を第一回の会議の添付資料として配布して確認し、この思想を愚直に実践していかうと当初より意識していた。社会で決めるといえるのは、消費者としての市民のみが集まって、放射線防護のメリットのみを最大化した「ゼロベクレル」を目指していくことではない。利害の異なる多様な主体で構成されているのが社会であることを前提に、一定の放射線防護を実践することでデメリットが発生する可能性のある人々（農家など）の声にも耳を傾け、放射線防護を行うために発生するコストも勘案（円卓会議の場合は、おもに測定業者・ベクミルの見解）した上で、時間をかけて決定していくことだ。

柏というホットスポット化した地域において、正式な手続きは踏んでいないまでも、多様な利害の人々を集めたある種のコンセンサス会議〔★9〕的な場を作り、そこでの熟議を経て、測定メソッドと自主基準値を曲がりなりに「社会的」に決定したというプロセスに、私たちは胸を張っていいと思っている。

〔★9〕コンセンサス会議については、篠原一編『討議デモクラシーの挑戦』岩波書店、2012年を参照。

もちろん、円卓会議という「社会」で決めた基準値を、柏市民は誰しも受け入れるべきだなどと思っているわけではない。一定の条件下で社会的に合意された基準値を受け入れて、購買行動の参照点にするかどうかは個人の自由な選択であり、押しつけるべきものではないというのは当然の大前提だ。それでも私は、多様な市民がそれぞれの利害関心を調整すること、放射線防護を「社会化」するこうした試みが、全国的に広まることを願っている。未だもって、食品安全委員会における専門家の議論を経て国が出してくる基準に対して、高すぎる、いや低すぎるといふネット上の言い合いばかりが目立ち、ALARA原則の思想を地道に実践する各地のこうした試みがあり伝わってこないのは、とても残念なことだ。

ただし、こうした試みで設定されるそれぞれの基準値は、20 bq/kgより高い場合も、低い場合もありうるだろう。この数字はあくまで、12年3月の時点の柏の汚染度における野菜の基準値として折り合って合意されたものであり、決して普遍的なものとも、絶対的なものとも考えられない。むしろ、最低限のベースとしての国の基準のほかに、さまざまな地域において、そ

